

講師：高木朝子氏（熊本高専熊本キャンパス准教授）

演題：「アイランドにおける水の信仰」

期日：令和3年7月24日（土）午後二時～三時半

会場：お菓子の香梅帯山店ドウ・アート・スペース（熊本市中央区帯山7-6-84（国道道路沿い））

参加費：無料

## 年間テーマ『 アイランドの宝物 』

アギネスの黒ビール、モハーの断崖、リバーダンス、緑のセント・パトリック・パレード、小振りで上品なハーブの音色、歌手エンヤの美しくも神秘的な歌声、今もパブで語り継がれる S. ヒーニーや W. B. イエイツの詩の朗読、どこまでも続くドラムリンという低い丘陵の地形、聖地はケルトのくまほろばの丘ターラです。いずれもアイランドの奇跡ともいべき文化的あるいは地質学的な宝物です。

アイランドは原語ではエールと呼ばれ、ヨーロッパでは最古のケルト民族が建国した国です。信仰は三つ葉のクローバーに三位一体を託して伝えるカトリック。ハイクロス（太陽の光の輪と十字架が組み合わされたアイランド独特の十字架）です。道端には妖精も住んでいると信じられています。

現下、世界はコロナ禍を抱えつつ、困難な時代の中にあります。アイランドは歴史的に 17 世紀のクロムウェルによる大破壊、19世紀のじゃがいもの大飢饉、その後移民として新大陸へ大移住。そして長期に渡るイングランドとの確執などを乗り越えて今日に至っています。

この市民講座ではケルト（アイランド）の人たちの心の姿に光を当てます。それはアイランド人を父親としてもつラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の心に少しでも近づくこととなります。熊本に三年住み、名作を多く残してくれたハーンです。彼の熊本における顕彰の意味を込めてこの地において市民講座を開き、アイランドとハーンのことを思い出すことは大切なことであるに違いありません。

### 講師からひとこと

「アイランドにおける水の信仰」  
アイランドの人々はかつて水に対する特別な畏敬の念のようなものを抱いており、それは民話の中にも見ることができるといえる。この地はあまり肥沃でないため、海の近くに暮らす人々は海洋資源を頼って生活し、内陸に暮らす人々は生活に潤す水源となる川や湖、泉などに頼って生きてきたからだ。今回はそうしたアイランドの人々が民話に残してきた水に対する様々な思いについて、また水と妖精の関係性について、「水の信仰」としてご紹介していきたい。

（高木朝子）

次回市民講座は8月28日（土）立山由生氏（ワシントン外語学院院長）

タイトル：『スターウォーズとアイランド』を開催します。

お問い合わせは熊本アイランド協会事務局へ

Tel.096-366-5151 Fax.096-372-1857 / Email:office@kumamoto-ireland.org